

2023年5月22日

北星学園大学・同短期大学部の学生の皆さんへ

## 生成 AI の利用について

学長 大坊 郁夫

オープン AI という企業による ChatGPT やマイクロソフトの Bing などの自然言語 AI チャットボット（対話型 AI）の開発が急速に進んでいます。つい最近 5 月 18 日にはアメリカでスマホのアプリも開発されました。日本版も間もなく登場するでしょう。近頃は皆さんも見聞きする機会が増えたことと思います。使い勝手を試した人も少なく無いと思います（なお、ChatGPT の上位ツールとして、日本語の精度の高い有料の GPT4 もあります）。

日本国内では ChatGPT を利用する方針を決めた企業や自治体が現れるとともに、これを歓迎してビジネスチャンスとして急速にその活用方法も流布し始めました。

簡単な質問をするだけで、いかにも自然な言葉で速やかに答えてくれます。Google などで検索するのに比べて質問に対して的を絞って答えてくれますので便利だと思う人は多いはずですが（複数の事柄の特徴を比較するよう求めると、リスト形式で列挙してくれます）。従来よりも得たい情報を効率よく得ることができるので有用です。過去の知識を組み合わせ得られる類いの情報を提供するのをお手のものなので、「斯く斯く然々の利点と欠点を述べよ」というような問いには実に適切な回答をしてくれるように思います。

また、キーワードを複数示してそれを織り込んだ歌や短歌などもスマートに作ってくれます。類する対話型 AI は今や急速にその種類を増しており、かつ、それぞれ特化した違いも見られます。ChatGPT ですと、6 番までの歌詞を作ってくれます。グーグルの Bard ですとサビまでつきますし、曲をつけるように指示すると音楽ライブラリーを使ってコードも加えてくれます（ちなみに「5 月、ライラック、北星学園、サラ・スミスを含めた歌を作ってください」という問いに答えた ChatGPT と Bard の[作品](#)を参照してください）。

さらには、テキストを入力すると高精度の画像を作成する画像生成 AI も複数あります（Stable Diffusion を無料で使える Hogging Face など）。

このようなツールは今後益々精度を上げ、各々の目的に特化した専門的なツールも登場するはずです。しかも、それは今想像する以上のスピードで進むことでしょう。

便利なものには、同時に避けられない課題、問題があるものです。われわれの質問（要求）に即座に適切な回答してくれる背景を考えてみましょう。

どの AI も基本としては、インターネット上にある膨大な情報を収集・検索してわれわれの質問に答えるべく日々準備をしています。かつ、利用者の質問も AI の素材として用いられています（なお、Bard では、検索時の力点の置き方のオプションがあり、また、利用者

の質問が AI の素材として利用しないとの条件を付けることができます)。そして、われわれが入力した質問内容の「キーワード」に高頻度で登場する単語を探しているのです（ある単語と共に登場する確率の高い（つまり共起する）単語）。現時点では少なくとも因果的な流れで回答文章を作成しているではありません（いずれ、因果性まで勘案するシステムが出来るでしょう）。ですから、**情報を誤って用いている可能性**は多々あります。自分なりの確認が必要です。なお、ChatGPT では答えに根拠を示しませんが、Bing では参照したウェブ上の情報の所在（アドレス）まで示します。また、同一の質問を異なる AI にして得られる結果を比較すると分かりますが、それぞれが参照している情報源には違いもあるようで同じ結果が示されることは少ないようです。さらに、日々情報源の更新をしているので、時期によっても回答結果は異なります。

インターネット上にある情報が全て著作権フリーとは限りません。当事者が望まない個人情報や作品が収集され、用いられている危険性があります。そうすると、皆さんが、侵害しているつもりはなくても**著作権侵害をしているリスク**もあります。

また、自然で要点を踏まえた文章で回答してくれるので、それをそのまま皆さんが作成したレポートとして教員に提出するような行為は、**不正な剽窃**に当たります。それには、“検索”しただけの労力しかかかっていません。皆さんを**正当に評価する成果物には当たりません**。同時に、課題について考察し、文章として練るという本学での大事な学びを忘れないでください。

どの専門分野であっても、高等教育機関で学ぶ際には、当該の基礎知識を会得し、学びの方法論を踏まえ、教員や仲間と議論し、自分なりに試行錯誤しながら考察の対象に近づき、考察を積み重ねることが不可欠です。この**創造する努力こそが後々の自分をタフにする**のです。

世の中の全ての技術は常に進歩します。対話型 AI は益々便利になるはずですが、それを上手く活用することは大事です。この種のツールを使用する**リテラシーを磨くことは必要**です。同時に、その背景や課題を正しく捉え、今・これからを生きる者としての知恵を身に付けたいものです。

また、オープン AI のサム・アルトマン CEO が来日し、5月10日に岸田文雄首相らと面会し、課題への対処で日本政府と連携する意向を示しました。さらに、G7に先立ち富山市で開催された教育相会合でも教育現場での活用ではメリットとデメリットのバランスを考慮することの重要性を共有され、G7 広島サミットの初日 5月19日には、生成 AI の国際ルール作りを進めることで合意しました。このことは、この AI 開発・利用が世界的に大きなインパクトを持っていることを示していると言えます。

新たなツールを利用して創造的な活動を行うことは大事なことです。ただし、利点と欠点はあるものです。それをよく理解して正しく利用してください。

なお、対話型 AI の使用法について多くの大学が発信しています。それらも適宜参照してください。

生成 AI の倫理的・法的・社会的課題について、大阪大学の社会技術共創研究 (ELSI) センターの「[生成 AI \(Generative AI\) の倫理的・法的・社会的課題 \(ELSI\) 論点の概観：2023 年 3 月版](#)」が参考になります。関心のある方は参照してください。

ChatGPT に自らの利点と欠点について説明を求めてみました。その結果はなんとも妥当だと思います。[ChatGPT の利点欠点](#)を参照してください。